

水トラストニュース

2023.6 No.48



もくじ

私の世界が広がった話1
村越造園への道-3 & 一口メモ3
ヒノキ苗植林記録5
2023年度定期総会案内7

私の世界が広がった話

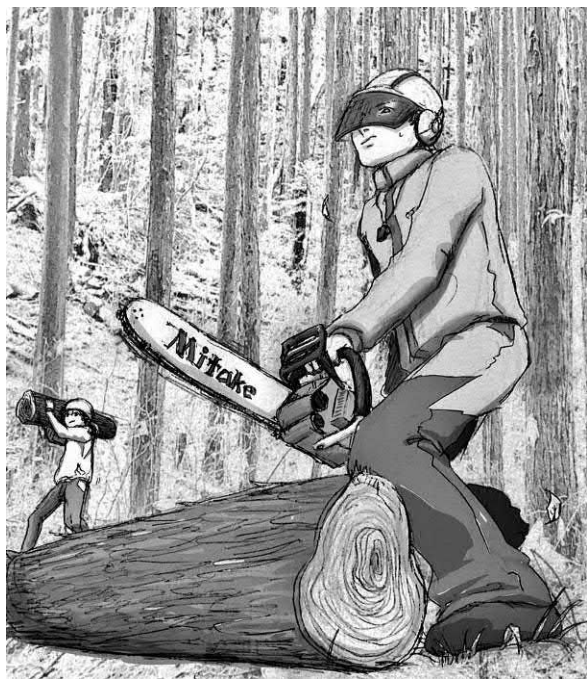
伊藤 友紀

機会をいただいたので、振り返りながら自分語りをしてみたいと思う。

私は生まれも育ちも名古屋市内。高校・大学・就職までもずっと名古屋。両親も親戚もおおむね名古屋中心で、よっぽどの旅行でもない限り、自分から名古屋を出ることのない 20 余年を生きてきた。自慢ではないけれど、一般的には私は恵まれている部類に入と思う。なぜなら、今までの生活で不自由をした思い出もなく、与えられるもので大きな疑問も抱かずに毎日問題なく生きてこれたから。

ただ、そんな中で生きてきたからか、日々の物事を見直したり疑問を抱いたりということもなく、与えられた勉強をして与えられた選択肢から受験して、受かるために与えられた塾に通って・・・と受け身の生活だった。教科として歴史や理科やなんやらを学校で学んでも、それほどこまでも私には現実味や身に迫る危機感も感じない、紙の上の知識や出来事で、他人事のファンタジーのような感覚だった。

そんな私が初めて水トラストさんの活動に出会ったのは、なごや環境大学の講座で運営としてかわったとき。思い出すと恥ずかしいばかりだが、言い訳をすると「講座」というものをやったこともやるものとして受けたこともなくて、運営の手順も現地の情報収集もあれもこれも不十分なままに挑み、案の定反省点の多い結果にはなったが、私はそこでいい経験をしたと思った。



伊藤さん作イラスト

御嵩町の産廃処分場の建設計画反対に端を発する水トラストさんの活動には、少ない私の経験にも引かかる部分があった。私の異動前の職場は南陽工場（名古屋市港区）で、ここもかつては藤前干潟を埋立て、処分場をつくる計画があった場所で、まさか近くにそんな場所が他にあるとは思わなかったからだ。

そして普段何も考えずに蛇口から飲んでいる水について、水道料金の差や水と森林の関係、土壌に含まれる物質が水に溶ける影響等、全く考えたことのない視点やなんとなく関係があるとは思ってはいっても深く考えずにいたこと、学校で習った知識や考え方等、遠いファンタジーが近くの現実になって見えたことは私の中で衝撃だった。

そして、何よりも森林での活動・体験はとて新鮮で刺激的だった。水源の森への道中はテレビで見るとような舗装された林道ではなく、上って降りて曲がった道で、そこを軽トラが駆け抜けていく。竹を伐り、窯に詰めて炭焼きなど初めての体験で、薪を囲んで丸太に座ってご飯を食べる新鮮さ、建物の奥には原木から立派なシイタケが生え、斧で薪割ができ、チェーンソーで木を伐る音が聞こえ、見たことのない真っ黒なゴキブリや真っ赤な虫がいて・・・等語りつくせないほど、家にこもっていたら見られない風景と匂いと体験ばかりで不思議な感覚だった。ただ、運営として訪れた最初の日には気になってやってみたくてたくさんあるのに、運営の立場の手前、参加者を差し置いてではしゃぶることはできず、すごくもどかしかった。そして、1日の体験では物足りなく、また来たいと思った。

何度か講座として通う中で、特にチェーンソーにも触らせてもらい、木を伐った経験は格別だった。さらにこの森に参加するために何か身に着けたいという気持ちが大きくなり、チェーンソーの講習を受けるに至った。この気持ちが醒めてしまう前に！と勢いで決めて調べてみたところ、受講資格も不要で3日間で取れる！というところがあり、何かがこの機会を後押ししているように感じた。実際講習を受けてみたら、思った以上に免許自体はすんなりといただけだが、今ではすごく重たいものに思う。講習で部品や構造、掃除の仕方も含めて教えてもらえたことは使用するうえでとてもよかったと思う。しかし、免許を持ってるからこそ、(持っていなくてもだけれど)事故は許されない気持ちは強くなり、活用していきたいという気持ちの間で、今も恐々チェーンソーを使っている。

このチェーンソーの講習を自分で申込み、免許を取ったことは、私の中で大きな一歩だった。そこからは考え方や姿勢がずいぶん変わった気がする。部屋でごろごろと過ごす毎日より、いろいろな森・海や生き物などの自然環境とそれらに関わって活動している人のことを一緒に体験して、見て、知りたいと思うようになった。そこからは相生山や東山、猪高緑地、小幡緑地等機会があるごとに訪れたり、真冬のカワザンショウガイの調査も楽しく参加したり、興味を持ったことへの行動力が少し身につく、活動範囲が広がった。日常生活でも見え方が変わり、半分仕方なくやっていた料理等の家事も面白く感じたり、自分の部署ではない仕事にも興味が広がり、とにかく「面白い」と思える気持ちが広がった。すごく人生が豊かになったように思う。



まだまだ今までさぼってきた分、知らないことも多くて後悔もあったが、これからはいろんな体験や知識を得る機会を通して学んでいきたいと思った。

環境大学講座の最終回で修了証書を渡す伊藤さん

村越造園への道 -3

村越 久弥

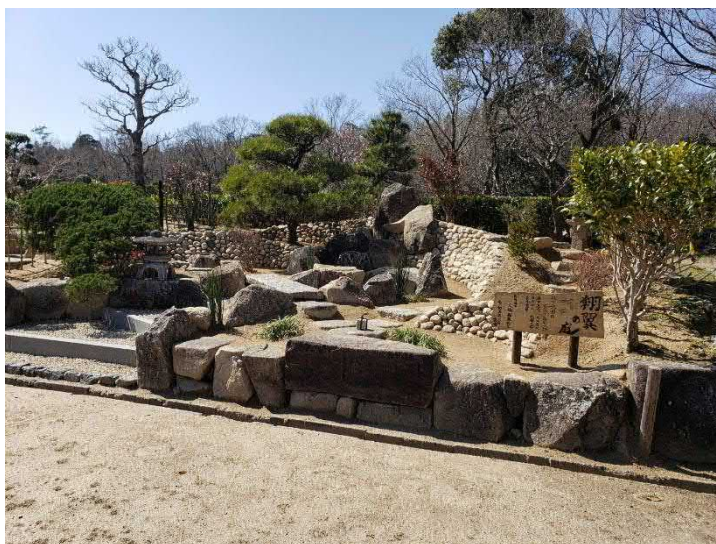
愛知県立岡崎高等専門学校総合造園科に入校し樹木の剪定や庭造りなどの知識や実習を重ねてきました。1月～3月中旬迄は終了庭園の作製で、3年前に造られた作品(広さは8×8m)を解体整地を行い、新たに設計、設置、を行いました。

先ず解体ですが、滝石組の石を掘り起し、三又(3本の丸太の上部を結束し三方向に広げて使用)にチェーンブロックを吊り下げて石にワイヤを掛けて1～2m程引きずりながら人力で両サイドに一時退避、敷石や延べ段などの小さめの石は人力で搬送し植栽樹木は根巻き(根を掘り麻布を巻き、麻縄で周囲を巻き固め、根が乾燥しない様に細根を保護する)をして別場所に仮植え(小物は人力で大物はトラッククレーン)を行い、園地をスコップやレーキ(楕状に歯を付けた物)で整地をします。作製に使う素材は今回解体した物を基本として使い、足りない物は学校の敷地内の物を追加する方法です。題材は自由ですが植栽、石組、つくばい、園路(飛び石など)、沓脱石(くつぬぎいし)、竹垣は必須として配置しますが、昨年までの反省より木等で構造物は造らないとしての計画です。

設計は平面図とパース図(目で見るのと同様な遠近感が現れるように、構造物などを描いた図)を先ず各個人で作製し、それを叩き台にして班の案を作成、教官と外部講師の助言を貰い修正後にスタートです。

アイデアはメンバー5人の中より、光君(若手)の案を基に、夫々の想いを入れ込み作製。ただ問題と成ったのは、ごろた石を石積して鶴の翼を形造りたい!! との案に教官からは、『無理、出来ない』と云われましたが、外部講師に相談した所、やってみる価値はあるよ、注意する事柄を伝授頂いたので、チャレンジすることにしました(やれるかな?よりも、失敗してもやってみよう)。

施工期間は17日間で開始です、滝石組では1石を置くのに丸一日掛り位置、向き、深さを決める事となりヘトヘトになると共に遅れが出たり、時には、時間を稼ぐため石を無理に引きずったり、ゴロゴロと人手で動かしたりと危険と背中合わせの作業をひたすら続けていると、ヒヤリが必ず起こります。共同作業時に違う行動をしたり、声を掛けずに動いたりするので注意をしても当人は無意識にやっているのが危ないとは思っていないので厄介でした。そんなこんなで何とか形を造り、最後に鶴の翼





のごろた石の石積みを4人で二日掛けて積み上げです。石を積む時に3個以上の石に当てる様にして裏から砂や小石を入れて突き固める作業を膝を付いて祈りながら黙々と繰り返したのです。工期は3日間の予備日を使わせて貰い、20日間で完成をする事が出来ました。完成披露で外部講師に『よくやったねえ』と褒めて貰った時は皆して、ガッツポーズでした。ただ後輩たちが除草作業の時にどの様にするか大変だねとの評価も貰いました。見栄えと実用性の両立は難しい。2度とする事が無いと思われる作業でしたが、今後の仕事で参考になれば良いなと感じます。

又、好きな事を学ぶ場を貰い学ぶ事がこんなに楽しいんだと感じ充実した学生生活でした。

3月に卒業をし4月より、個人邸の庭木剪定や会社の社宅や寮などの緑化管理の仕事に就きました。まだまだ道は続きます。色んな事を吸収し、楽しい人生を歩んでいきます。

写真の庭園の題名は『翔翼の庭』3羽の親子鶴が翼を広げており、そして3匹の親子亀が左手前ビヤクシンの下に隠れています。場所は愛知県緑化センター第3駐車場(愛知県豊田市西中山町猿田21-1)に隣接の芝生広場奥の造園実習場に有ります、近くに来られたら立ち寄り下さい。

《一口メモ》

★アセビ、キョウチクトウ等の有毒植物は『緑のリサイクルには出せない』。どうすれば良いの？

緑のリサイクル事業は、これまで焼却処分されていた公園や街路樹などの公共施設から発生する剪定枝や刈草をチップ材や堆肥にして再利用するものです。堆肥を生産する上で品質を低下させてしまうと判断されるものは、搬入禁止物としています。1. ウルシ、ヌルデ等の触れるとかぶれるもの 2. アセビ、キョウチクトウ等の有毒植物・・・。又、キョウチクトウの枝は「生木」を「低温」で燃やすと有毒ガスが発生しますから焚火などはやめましょう。

☆どうする⇒剪定後、カラカラに乾かしてから、燃えるゴミで出してください(高温炉で焼却)。

調べても処理方法は簡単に見つからない様ですが色々な情報を並べると以上の様になります。



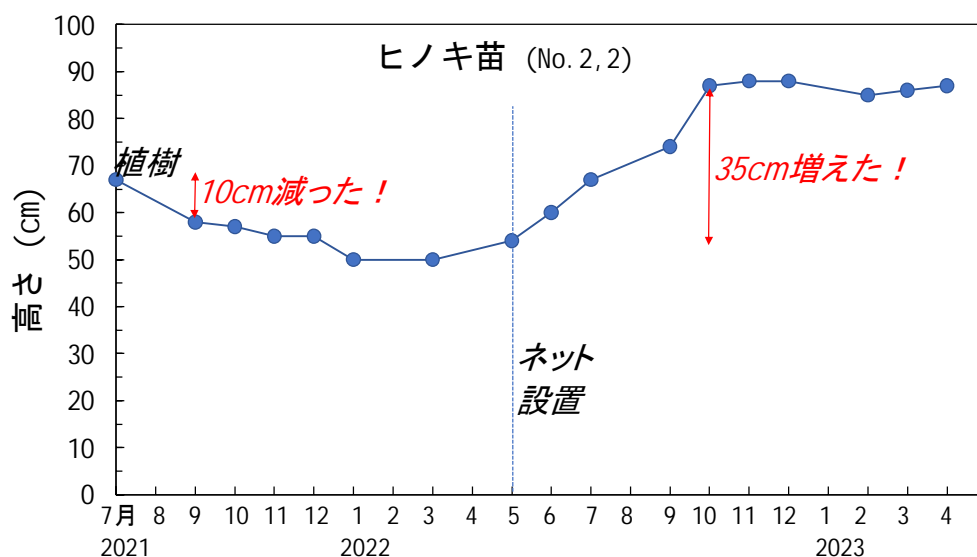
ヒノキ苗木植林記録 2021.6～2023.4

2021年6月、なごや環境大学講座「森林を育む人づくり講座」のメニューの一つとして、ヒノキの植林をした。小屋近くの、広葉樹などを伐採した用地を使ったが、実はそこを用意したのは約10年前、2012年だ。5月にやはり環境大学大学講座の活動として、いちど植林をした。自然に生えている(実生の)ヒノキを採取してきて、そこに移植した。植えた苗は、枯れたわけではなくちゃんと根づいたようだったのだが、全然大きくならなかった。そのうちに、一本枯れ、また一本枯れ、気がつくとも全部なくなっていた。

というわけで、今回は同じ場所で二度目の挑戦ということになる。前回は実生の苗の移植だったが、今回は苗業者さん(大口町の前田樹苗園)から苗を買うことにした。50～70cmに育った苗を20本、活動日の前日に宅配便で送ってもらった。前回の植林がなぜ失敗したのかわかっていなかったが、苗が小さすぎた、あるいは採取の仕方に問題があったことが原因だったかもしれない。だとしたら、買った苗ならうまくいだろう、と期待をした。

植えた翌月(7月)、苗はどれも元気そうでちゃんと根づいたようだった。図は、一番背の高い苗の、7月からの高さの変化である。8月の休みを挟んで9月、夏の間にはさぞかし大きくなっただろうと思って測ってみたら、約10cm小さくなっていた。他の苗の多くも同じように5～10cm小さくなっていた。それからほぼ毎月苗の高さを測ったが、いつもほとんど変化なし。他の苗も同様で、枯れたわけではないのだが、ちっとも大きくならない。結局、買った苗を使っても、失敗に終わった前回の植林と同じことが起きた。

なぜ大きくならないのだろうか？ 10cm小さくなったのはシカなどに食べられたためではないか、という声もあった。たしかに苗の先端は切られた・ちぎられたようになっていた。実際、日本の広い地域



ヒノキ苗木(2,2番)の高さ。(寒い時期11～4月は成長しないみたいです)



の植林で、シカ・カモシカの食害が問題になっている。1970年頃は、シカは絶滅寸前とさえ考えられていたが、今では全国で300万頭以上が生息しているという。(田中淳夫「害獣列島」イースト新書 2020年) カモシカも絶滅が危惧され1955年に特別天然記念物に指定されたが、その後数が増え食害の被害も増えてきた。御嵩の山でもシカやカモシカが目撃されている。左の写真は、水トラストの活動中に撮影されたカモシカの写真である。

でも、シカやカモシカが苗の先端10cmだけ食べるということはあるのだろうか？ 食べるなら、苗を全部食べるのではないだろうか？ そう考えたため、成長しないのが食害のためであると信じるのがなかなかできなかった。

・いや、もしかしたら、彼らは新しく育った(おいしい)部分だけを食べるのではないか。人間の山菜取りといっしょだ。柔らかい新芽は食べるが、ある程度育って硬くなったら食べない。植えた苗の先端の柔らかい部分がまず食べられ、その後は成長した部分が次々食べられていると考えれば、苗の高さがグラフ(一年目)のように変化することも理解できる。(前掲書にも、カモシカによってヒノキ苗の“頭頂部がかじられる”という表現が出てくる)

そういう可能性によりやく気づき(思えば、長い時間がかかった)、2022年春に食害対策をすることにした。まず5月に、お試しで、100均ショップで買った網と支柱を使って、いくつかの苗を囲った。(グラフの苗にもこの時ネットを張っている)そして6月には、食害防止用のネットと支柱を購入し、すべての苗を保護した(下の写真)。その後の成長ぶりは、グラフの後半に示すとおりで、10月までの5か月間で**約35cm成長した**。他のほとんどの苗でも、一年目と違って、黄緑色の新芽の成長が見られた。

この結果を見ると、一年目に全く成長しなかったのは、食害のためだったと考えられる。私たちの植林の場所は、人家からそれほど離れていないし規模もとても小さいが、山の奥地での本格的な植林地では、食害の被害はもっともっと深刻なのだろう。これまで木の伐採や運び出しで林業のたいへんさをささやかに体験してきたが、この活動では植林のむずかしさをささやかに体験することになった。

(市村正也)



2023 年度定期総会のご案内

時：6月25日（日）15：00～

場所：名古屋市千種区今池3-12-3 丸美タウンマンション今池205号

（地下鉄今池下車：徒歩5分、JR千種下車：徒歩10分）

詳しくは下記連絡先にお問い合わせください。

議題：2022年度事業報告および決算報告

2023年度事業計画および予算

その他の報告

講演：「木の年輪から過去の気候をさぐる」講師：庄 建治朗さん（名古屋工業大学）

丸木を出荷しました

4月22日、間伐したヒノキ材(右の写真)を大王製紙へ出荷しました。(13.53トン)



表紙の絵は早川しょう子さん作

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒464-0850 名古屋市千種区今池3-12-3

丸美タウンマンション今池205（←2020年11月より）

郵便振替00840-5-137369（←2018年5月より）

URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp